

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅲ(看護過程の展開)		濱田 秀子		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・個人ワーク	1(15)	3年生教室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	ヘンダーソンモデル、観察・アセスメントの視点、セルフケア、対人関係				
到達目標	看護過程の展開を通して、精神障害のある患者の看護を理解することができる。				

授業計画

No.	授業内容
1	〔講義〕 1) 看護過程の展開の構成要素の再確認(復習) 精神看護における観察・アセスメントの視点 統合失調症、精神疾患患者の特性 2) 事例紹介、個人ワークスタート、質疑応答
2	個人ワーク
3	個人ワーク
4	個人ワーク
5	個人ワーク
6	個人ワーク
7	個人ワーク
8	終講試験
履修上の要件	疾病と治療Ⅴ「精神」、精神看護学概論・精神看護学Ⅰ・Ⅱ 基礎看護学「共通基本技術Ⅰ・Ⅱ」を終了していること
テキスト、教材、参考書	はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神看護過程 医歯薬出版(株) 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メヂカルフレンド社 関連資料配布
成績評価の方法	看護過程記録一式の提出
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学実習Ⅱ		林 なおみ 他		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(90)	県立大島病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	成人期特有の健康障害で慢性に経過し生涯コントロールが必要な患者への援助を通して看護実践に必要な知識、技術、態度を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期にある患者の特徴と、看護の特徴を理解する。 2. 疾病が患者の日常生活に与える影響が理解できる。 3. セルフケアに向けて生活行動の自立への援助、教育的支援が実施できる。 4. 障害受容への心理的サポートができ、患者のメッセージを聞くことができる。 5. 疾病の自己コントロールができるような教育的支援ができる。 6. 家族の訴えを受け止め、援助ができる。 7. 社会資源を理解し、必要時継続看護が実施できる。 8. 行った看護を評価できる。 				
事前学習	循環器疾患患者・呼吸器疾患・内分泌疾患の看護 他				

授業計画

No.	授業内容
1日目～15日目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習を提出する。 2. 受け持ち患者：回復期にありリハビリテーションが必要な患者 日常生活援助を必要とする患者 3. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1日目は学内にてオリエンテーションを行う。 2) ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。 3) 2週目にケースカンファレンスを実施 4) 1～2名の患者を受け持つ 5) 最終日は学内にてリフレクションおよび課題学習を行う
履修上の要件	成人看護学Ⅰ～Ⅴを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院
成績評価の方法	成人看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学実習Ⅲ		林 なおみ 他		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(90)	県立大島病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	周手術期の患者の援助を通し、早期回復および生命維持に関する看護を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期における患者の身体的・精神的・社会的特徴が分かる。 2. 急性期における看護の特徴が理解できる。 3. 手術を受ける患者を理解し安全・安楽に手術を受けるための援助ができる。 4. 手術見学を通して、術後予測される身体的、精神的苦痛を理解できる。 5. 生命維持のための呼吸・循環管理、維持の現状が理解できる。 6. 早期回復のための術後患者の看護が理解でき実施できる。 7. 不安、苦痛を緩和するための援助の方法を学び、その一部を実施できる。 8. 社会復帰を目指す患者の援助ができる。 9. 家族への援助の必要性が理解できる。 10. 行った看護を評価できる。 				
事前学習	周手術期の看護、消化器疾患患者の看護、運動器疾患患者の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～15日目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習を提出する。 2. 受け持ち患者：回復期にありリハビリテーションが必要な患者 日常生活援助を必要とする患者 3. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1日目は学内にてオリエンテーションを行う。 2) ヘンダーソンの理論に基づいた基本的看護を行うための情報収集をし、看護過程を展開する。 3) 2週目にケースカンファレンスを実施 4) 1～2名の患者を受け持つ 5) 可能な限り手術見学を行う 6) 最終日は学内にてリフレクションおよび課題学習を行う
履修上の要件	成人看護学Ⅰ～Ⅴを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院 系統看護学講座別巻 成人外科看護総論 医学書院
成績評価の方法	成人看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名	対象学年		
小児看護学実習		田口 恵	2年～3年次		
授業形態	単位(時間)	実習場所	学期	曜日	時限
実習	2(90)	県立大島病院 小児科病棟 外来 小宿保育園 春日保育園 のぞみ園	前期 後期	月～金	8:00 15:30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である				
学修内容	小児各期の特徴を理解し、健康の保持・増進及び健康上の問題を持つ個々の小児とその家族に対して必要な看護が実践できる基礎的知識、技術、態度を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期における身体的・精神的・社会的な発達の特徴を理解できる 2. 健康な小児、健康を害している小児の日常生活を理解し、成長発達への援助方法を理解できる 3. 小児の健康障害の特徴を把握し、対象に応じた看護過程の展開ができる 4. 健康障害や入院生活が小児と家族に及ぼす影響を理解できる 5. 小児を取り巻く医療、保健、福祉の連携の中で小児看護の役割を考察する 				
事前学習	小児の代表的な疾患 患児家族の看護、乳幼児の成長発達、バイタルサイン測定 乳児の身体計測 プレパレーション 転倒転落のアセスメント 学習や遊び等				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日(学内)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習施設オリエンテーション:実習施設、病棟の概要について バイタルサイン測定について(乳児期)、身体計測実施(モデル人形使用) 2. 最終日は学内にてリフレクションおよび課題学習を行う
2日間 小児科外来	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児が受ける医療サービスの実際を学び、医療保健福祉の連携について学ぶ 2. 小児特有の診療の補助技術について学ぶ(安全安楽な技術)
4日～5日間 小児科病棟 NICU	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習を提出する 2. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康障害を持つ小児及び家族を理解し、家族を含めた看護援助について学ぶ 2) 患児を受け持ち必要な看護について、看護過程を展開し理解する 3) ケースカンファレンスを行い、看護援助について適切か検討する 4) ハイリスク新生児について学ぶ
保育所(3日間)	1. 健康な小児の成長・発達を理解し、望ましい保育について学ぶ
療育施設(2日間)	1. 障害児の成長・発達について理解を深め、保育者との関わりを学ぶ
履修上の要件	小児看護学概論、Ⅰ～Ⅲを修得していること
テキスト、教材、 参考書	領域別実習要項 系統看護学専門Ⅱ 小児看護学概論・臨床総論 医学書院 系統看護学専門Ⅱ 小児看護学臨床各論 医学書院
成績評価の方法	小児看護学実習 評価表に基づいて、出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名	対象学年
母性看護学実習		恵原 知恵 他	2年～3年次
授業形態	単位(時間)	実習場所	
実習	2(90)	県立大島病院 産婦人科病棟・産婦人科外来	
実務経験	本科目は、助産師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	周産期における母子の特性を理解し、母性および新生児の看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥および新生児の特徴と正常な経過が理解できる。 2. 産褥および新生児の援助を体験し母性看護技術の特殊性が理解できる。 3. 受け持ち褥婦・新生児への健康課題を理解し、褥婦・新生児への援助・指導のあり方を学ぶ。 4. 母性看護を通して自己の母性観(父性観)を深めることができる。 		
事前学習	妊娠期の看護、分娩期の看護、産褥期の看護、新生児の看護		

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～15日目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習を提出する。 2. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1～2週目は正常な経過をたどる分娩・産褥期の対象および新生児を受け持つ。 *男子学生は女子学生とペアを組み褥婦と新生児を受け持つ。 褥婦のケアや観察で実施できない場合もあるので、女子学生と情報を共有する。 2) 3週目は、機能別実習として外来(半日)実習や妊娠期の技術を見学および体験する。 3) 外来実習は1日1名、半日実習とする。 4) 分娩見学 <ul style="list-style-type: none"> ・産婦の許可をもらい1人1例実施する(女子のみ) ・男子学生は、産婦の許可をもらい帝王切開を見学する。
履修上の要件	母性看護学実習を履修するには、母性看護学Ⅰ～Ⅱを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学(2)母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ周産期各論(医歯薬出版) 病気がみえる vol10 第3版
成績評価の方法	母性看護学実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学実習		濱田 秀子		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(90)	奄美病院	前・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	精神に障害のある対象について理解し、精神看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科の治療環境・生活環境について理解できる。 2. 精神科医療の特徴が理解できる。 3. 対象の日常生活を観察し、精神障害が生活全般に与える影響について理解できる。 4. 精神に障害がある対象を理解できる。 5. 対象の日常生活行動を把握し、自立に向けて援助できる。 6. 対象が周囲の人々と交流が持てるよう援助する。 7. 行った援助を評価・振り返ることができる。 8. 対象との人間関係のあり方を通して自己の行動を振り返ることができる。 				
事前学習	精神看護の目的と意義、精神保健医療福祉の法制度、統合失調症／気分障害／てんかん／パーソナリティ障害 向精神薬の種類と主な副作用／多飲水／行動制限における看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～15日目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題を提示し、実習の事前学習を行う。 2. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 受け持ち患者看護 1名の患者を受け持ち、ヘンダーソンの理論に基づいて看護過程を展開する。 3) 演習 ・プロセスレコードを活用し、対象との関わりを振り返る。 4) カンファレンス 5) 5日目～9日目のあいだに1日学内実習にてリフレクションを行う
履修上の要件	精神看護学実習は、精神看護学概論、精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを修得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 医歯薬出版 看護学生のための精神看護臨地実習 NOTE 中央法規
成績評価の方法	精神看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	